

広報誌 すずかけ

鳥取県立厚生病院 Tottori Prefectural Kousei Hospital



すずかけQR

R6.05

第**61**号

誕生

NEW/BIRTH/ BORN/START/RESTORATION/CHANGE

2人のベビーは、当院で4月に生まれた双子の兄妹。見ているこちらがにっこりしてしまいます。今回のテーマは『誕生』。誕生に関わりの深い産婦人科医の1日や、4月から一部新しくなったユニフォームにフォーカスして、当院で働く様々な職種をご紹介します。新たな年度を迎え、思い新たに邁進する厚生病院の姿をお届けします。



NEW BABY Instagram



KOUSEIBABY2024



今回は「健やか見聞録」で100回記念番組として『～密着！ドクターの1日～』が作成されました。その様子を切り取ってお伝えします。今回密着したのは、産婦人科医の木山医師です。

8:15

出勤



8:30

病室にあいさつ



その日手術を予定している方の元へ。体調確認をしながら和やかな会話でリラックス、リラックス。

12:00

妻の手作り弁当

9:00

外来診察開始



診察が終わるとお弁当の時間。座って食べる時間がない時もあるとか。

13:00

手術



準備出来たら執刀開始！



執刀開始から6分で赤ちゃん誕生！感動のご対面には、周りのスタッフも笑みがこぼれます。



麻酔が効くまで、手をにぎり安心してもらうよう声をかけます。



16:30
一日の診療内容を記録します



17:15
一日の仕事を終え帰宅



もちろん、この時間に帰れないことも。出産はいつ始まるかわからないため、交代で産婦人科医が常に待機しています。お疲れさまでした。

Obstetrician ● ● 産婦人科医の一日



同僚に木山先生の印象を聞いてみました

- ・指示が明確でわかりやすい
- ・とにかく丁寧に患者さんは不安がない
- ・妊婦さんをリラックスさせている
- ・わからないことを優しく教えてくれる



インタビュー

■ 仕事をする上で大事にしていることは？

基本的に話を聞くことを大事にしています。

■ なぜ医師になろうと思ったの？

小さいころ診てもらった小児科の先生がかっこよくて、あこがれていました。医学部の実習ですべての科をまわったときに、分娩に立ち会い、こういう仕事がしたいと思い産婦人科を選びました。

■ 産婦人科をやっていてよかったと思うことは？

赤ちゃんとお母さんと笑顔で迎えてあげられた時が産婦人科をやっていてよかったなと思う瞬間です。

■ 木山先生にとっての医師像とは？

人の為になるという職業だと思います。みなさんが元気になるように自分が努力して、元気になってくれると一番やりがいがあります。まだまだ未熟な点もあるので、さらにレベルアップを目指して、もっと多くの人に貢献できる医師になりたいと思います。

実は手話ができる木山先生。大学で手話サークルに所属していたのだとか。



NEW UNIFORM

4月から看護師とナースエイドの制服が新しくなりました。
当院で働く職員のファッションショーをご覧ください。

このたび、新しく
なりました☆



ナースエイド

後ろの首元にストラップ
をかけるタグ付き。肩こり
軽減に。



看護師

白とネイビーの2種類。上
下組み合わせも入れると
4パターンの着こなし。



看護師(手術)

手術室や検査室では、専
用のユニフォームに着が
えます。

看護師(Tシャツ)

入浴介助のときに、Tシャ
ツを着ています。オリジ
ナルを作っているところも。





薬剤師

2種類から自分で好みのものを選びます。ケースは二人だとか。



リハビリ

白と紺を気分によって。リハビリ職員には動きやすさが大事。



検査技師

上下白。検査機器も白いので、検査室に入ると白い世界が広がります。



放射線技師

白と紺の2パターン。他にも検査によって変わる場合もあります。



臨床工学技士

全身ホワイトのワントーン。首元はローネックのケースでスタイリッシュ。

栄養士

私服の上に白衣。病棟にも栄養指導に行きます。栄養のスペシャリスト。





ナースアシスタント

病棟で看護師長のサポートをする職員。目を引く色で明るく対応します。



メディカルアシスタント

診察室で医師の診療補助をしています。落ち着いた雰囲気のエニフォーム。

医療SW

退院調整をする社会福祉士資格を持った相談員。親しみやすさを込めて。



手話通訳

手話が見やすいように、なるべく濃い目の色をチョイス。今回はえんじ色。



医師

白衣、スクラブなど、色々な服を着ていますよ。



事務

病院では珍しい私服です。安心感と清潔感を大事にしています。

色々な制服と職種があるね



初めて怖いと思った

中央放射線室
朝倉 頤一

1月1日、地震が発生して、その日のうちに全国のDMAT隊に国からの待機要請がかかった。我々厚生病院のDMAT隊も、その日の夕方には担当者で会議を行い、災害の状況を注視するよう指示が出た。翌日にはいったん待機解除となり、まずは近隣のブロッックによる支援が始まった。7日、鳥取県から出動の打診があったが、メンバーの確保が難しかったこと、他の部隊が対応可能であったことから、出動は見送りになった。災害医療は切れ目があつてはならないと、次の出動に控えることにした。18日から23日までの出動が決まり、医師1名、看護師2名、調整員2名の5名チームで向かった。現地は水などのライフラインの再開に時間がかかり、避難生活も長引いていた。



不安はなかった。過去にも東日本、熊本と2回出動しており、家族もDMAT隊のことを理解してくれていた。子どもにも、自分の安全を確保した上での活動だと伝えてい

災害支援

～ 能登半島地震 ～



る。ただ、今回ひとつだけ怖くなった瞬間があつた。厚生DMATが業務の振り分けで2つのチームに分かれることになったのだ。男性隊員3名は搬送を、2名の女性隊員は災害本部での業務だった。津波も発生した地震だ、もし、また災害が発生したら、と思うと、仲間を守れない状況に不安を感じた。

今なら行ける！

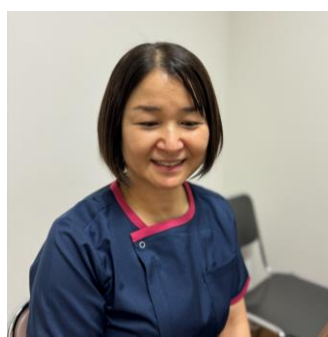
副看護師長
井上 智江

テレビで見て、大変なことが起こったと思った。すぐに、自分に何かできることはないかと考えた。わが子は小学4年生、母親が数日居なくても大丈夫な年ごろになっていた。「今なら行ける」そう思い、上司に派遣を立候補した。

2月22日から4日間の派遣が決まった。家族や近くに住む夫の両親にも応援してもらい、準備を進めた。移動は自分でJRを乗り換えて金沢にたどり着いた。金沢からは石川県の車に乗って、能登半島に位置する市立輪島病院に向かった。

輪島病院では全国から25人の看護師が派遣されており、共に活動を行った。到着したその日の深夜帯から勤務体制が組まれており、私は翌日の日勤から業務を開始した。寝泊りは病院内の透析室の空きベッドを使用した。現地の職員も避難所で生活している方も多く、同じ場所で仮眠をとっていた。

被災した医療機関への支援というところで、実際に病棟で患者のケアを行った。入院患者のほとんどは退院後も避難所生活となる。派遣ナースの私に、地震で倒壊した家の様子など様々な話をしてくれた。職員も多くも被災しており、被災後、30名の看護師が退職の意向を示しているとのことだったが、私が行ったときには、患者数も落ち着いていて



知識のない自分が感謝された

医療情報管理室
林 建太

県の要請で、厚生病院の事務職から1名派遣することが決まっていた。支援部隊ということしか決まっておらず、肉体労働をする可能性があったので、若手からということになり、自分に白羽の矢が当たったと思う。決まったときには、不安は全くなかった。

ニューズや新聞で見ただけの情報ではなく、直接現地にやって自分にできることを見つけられたらいいなと思って、やる気に満ち溢れていた。

現地へは、県庁から他の県職員たちと一緒にバスに乗って行った。県職員以外に一般のボランティアの方も2名一緒だった。現地について業務分担の結果、自分は罹災証明の事務手続きの業務を行った。他の方は、がれきの撤去作業、支援物資の確認、調達など、それぞれの業務に割り振られていた。

他県から来た支援部隊はどこから来た人なのかわかるように県の名札をつけていた。自分が担当した罹災証明というのは、被災した家屋の修繕のための補助制度で、その補助を受けるための案内をしたり、申請を受け付けたりすることが自分の仕事だった。普段の病院での業務とは全く違うことで制度のこともよくわからなかったが、「鳥取」と書いてある名札を見て、現地の方たちが「わざわざ遠い所



から来てくれありがとう」と言ってくれた。こんな知識のない自分が感謝された。夜、ホテルに帰ってからも、これまで知らなかった制度のことを勉強した。感謝の気持ちに少しでもこたえたかった。

軽微な破損のため補助対象外の方が、「破損は軽微だが、このままでは住めない。住むためには1千万円程度の修繕費がかかる」という話をされていた。災害時には行政の力が必要だと思った。ニューズや新聞だけでは感じられない現地の空気感を感じた6日間だった。

DMATの能登地震活動実績は当院ホームページにも掲載しております。このQRコードから該当ページをどうぞご確認ください。

整形外科部長
吉田 匡希



整形外科部長を拝命いたしました。丁寧な診療を心がけ、安心安全な医療を提供できるよう努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



内科
岡本 尚



消化器内科
關 優太



脳神経内科
根鈴 怜治



消化器外科
菅沼 和弘



胸部外科
野坂 祐仁



小児科
松田 卓也



小児科
木村 昂一郎



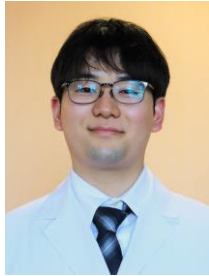
小児科
矢倉 和



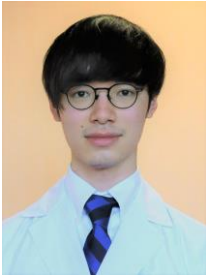
放射線科
保手 浜裕之



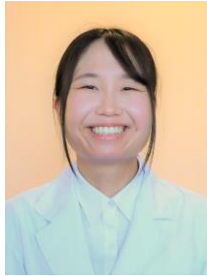
研修医
岩浅 大樹



研修医
並河 陽



研修医
南 優衣



研修医
橋本 悠太郎



事務局長
松本 秀樹



中部圏域の中核病院として、地域の皆さまに安心していただける質の高い医療を提供するためにも、職員が働きやすく、力を発揮できるような職場環境づくりに取り組んでいきたいと思っております。

4月から新しく当院で働き始める職員全員で研修を受講しました。これから1年間仲間として共に働き、地域のみなさまに安心安全な医療を提供できるよう、良いチームワークを発揮していきたいと思っております。新人は黄色いストラップをつけて1年を過ごします。みなさま、どうぞ、よろしくお願いいたします。



編集後記 Editor's Note

本邦の令和6年は震災で始まりました。当院から支援できる医療支援、貢献の記録を掲載しました。一方病院のスタートは満開の桜を横目に令和6年度が始まりました。毎年この時期に多くの新職者の瞳の輝きで、在職スタッフの気持ちも何故か浮き浮きする4月です。年間350件近い分娩を行う当院、毎日大切な命が誕生していることとなります。各医療スタッフのユニフォームも新調し、これは制服の誕生です。病院では気持ちも制服も新たに、みなさまのため向き合います。誕生したばかりの赤ちゃんの笑顔を絶やさないためにも。

(副院長 紙谷秀規)



鳥取県立厚生病院

Tottori Prefectural Kousei Hospital

<https://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/>

〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150

TEL (0858)22-8181(代)

FAX (0858)22-1350